

「練馬区小中一貫教育推進方針（案）」に対する
区民意見反映制度による意見募集の結果について

1 区民意見反映制度（パブリックコメント）による意見の募集等

(1) 周知方法

ねりま区報（2月21日号）および区ホームページへの掲載

(2) 意見募集期間

平成28年2月21日から平成28年3月18日まで

2 区民からの意見

意見提出件数 23件（提出者数 2人）

3 意見に対する対応

区分	内容	件数
	意見の趣旨を踏まえ、計画に反映するもの	0
	案に趣旨を記載しているもの	3
	事業等において既に実施しているもの	13
	今後、事業を実施するなかで検討を行うもの	4
	趣旨を反映できないもの	1
-	その他意見	2

4 区民からの意見（要旨）と考え方・回答

別紙のとおり

区民からの意見と教育委員会の考え方

No	意見の概要	教育委員会の考え方	対応区分
1	この案が、これからの社会に対応していく事を考えた中での、本当に子供にとって有益な、将来の練馬を支えていく若者づくりに「最適な教育」としての教育を考えた結果の結論なのかという疑問がある。一方向的に「小中一貫校づくり」に傾注させた「教育原論」と言うべき根拠は何か。	推進方針は「小中一貫校づくり」だけではなく、小学校と中学校が連携・協力して義務教育9年間を見通した教育を行うことにも重点をおいています。小学校と中学校が連携・協力を深め、小中一貫教育に取り組むことが、子供たちの将来にとって有益であると考えています。	
2	ここまで具体的に小中一貫校のシステムづくりが進んでいる以上、専門家がより深く検討されることを望む。	今後も、小中一貫教育の取組において、専門家の意見や助言を聞きながら進めていきます。	
3	「一貫した教育効果」を作り出し、生涯にわたって学習していく基本的学力の育成を確立してほしい。	義務教育9年間だけでなく、中学校卒業後についても見通しながら、基本的学力の定着に努めます。	
4	「人間力育成」に傾注してほしい。具体的には、「いじめ」への対処やしつけについて、子供、教師、校長、教育委員会、保護者、区民に至る大きな「社会の輪」による「見守り」と「解決策への話し合い」の構築を作り出してほしい。「リーダーシップの育成」や「課題解決型教育」の充実を目指してほしい。	いじめへの対応において、家庭・地域と連携しながら、見守りや解決策の話し合いを行うことは大変重要であり、今後も家庭・地域との連携強化に努めます。リーダーシップの育成や課題解決型教育の充実にも取り組んでいきます。	
5	小中一貫教育では「ICT教育」が大きな課題として挙げられる。「プログラムづくり」も取り組むことができるのではないか。これからの社会におけるICT教育はITリテラシーを理解して応用できるスキルの取得が必要な教育課題となるが、そのような課題に答えられる練馬の教育関係者の養成あるいは確保はどうなっているのか。	「ICT教育」の充実は、練馬区教育・子育て大綱の取組の視点である「教育の質の向上」において、重点施策としてしています。また、文部科学省は「プログラミング教育」の必修化を検討していることから、教員向けの研修においても内容の検討および充実を図っていきます。	

6	何のための小中一貫校なのかの「理念」の説明が不足している。これまでのシステムでのデメリットの分析と課題の抽出が説明されるべきで、その対応策としての一貫校の理念なり役割を説明してほしい。	小中一貫教育の理念については、第2章「小中一貫教育の必要性」で記述しています。これまでのシステムでは、小学校と中学校で異なる学校文化があり、児童・生徒の理解の仕方や指導方法などについて、小学校教員と中学校教員の相互理解が不足していることが課題であると認識しています。	
7	長野県伊奈小学校や大町小学校などの事例のような「総合学習」を取り入れるための「小中一貫校」を目指すシステムなのか。	練馬区が取り組む小中一貫教育は、特別な教育システムを目指すものではなく、小学校と中学校で行っている教育の連続性・系統性を高めるものです。	-
8	「練馬区が取り組む小中一貫教育」の説明が不十分である。9年間を通して行う先進事例、インターナショナル校や欧米の例など書籍でも多くの事例を学ぶことができる。練馬ならではの「一貫教育」を作り上げてほしい。	今後も9年間を通じた教育の先進事例などについても研究しながら、練馬らしい小中一貫教育に取り組んでいきます。学校だよりやホームページなどを通して、小中一貫教育を分かりやすく説明するよう努めます。	
9	小学校においても、中学校においても、校長会なり副校長会なり、教員同士なりの勉強会を通して問題の把握や課題の抽出は充分できるはず。子供のための教育において自分だけの考えではうまくいかない。互いの話し合いの中からヒントが産まれてくる	これまでも、校長会、副校長会、教員同士の勉強会などを通して問題の把握や課題の抽出に取り組んでいます。今後も継続的に様々な機会を活用して小・中学校で話し合いを重ねていきます。	
10	I C Tの活用は時間の創出に繋がなければ意味がない	I C Tの活用によって、施設が離れている小・中学校の教員同士の連絡がとりやすくなり、時間の創出につながってきています。	
11	教育委員会と小中学校の中で、L A Nを利用すれば簡単に議論できる。子供たちの意見や会議の進め方もL A Nによってより効果的な進める方法もあり得る。	校内有線L A Nの環境を計画的に整備しています。子供同士の会議で情報機器を使用することの有効性については今後検討していきます。	

12	<p>小中一貫教育校の議論の過程においては、デメリットの検証が不可欠である。小中一貫教育校の関係者からデメリットの指摘が乏しい場合、その事実疑念をもつ慎重さが必要である。</p>	<p>小中一貫教育校大泉桜学園の検証では、7年生から入学する生徒や保護者の不安感などの課題について調査と検討を行いました。また、一般的に小中一貫教育に指摘される課題として「人間関係の固定化」「転出入への対応」「小学校高学年におけるリーダー性育成」「中学校における生活指導上の問題の小学生への影響」についても検証しました。</p>	
13	<p>「小中一貫教育校および義務教育学校の設置」では、図書館についての配慮がない。本来図書館は学校以前からの情報拠点なのだから、図書館抜きの学校議論は単なる配置論に過ぎない。グラウンドの利用もどのように変化させるのか考慮されていない。</p>	<p>みどりの風吹くまちビジョン「計画4」の中に学校図書館の機能強化が位置付けられています。これを受けて、学校図書館の活用と読書活動の推進を主要施策の一つとして、校種ごと、学校ごとの児童生徒の実態に応じた図書館活用、読書活動の促進が図られるよう努めています。今後は、図書館活用、読書活動における小中の連携等も検討してまいります。</p>	
14	<p>特別支援を要する子供への教育は通常の子供に比べてどこまで教育課題を追求するのがはっきりしない。練馬では、個々の子供の伸ばせられると思える「何か」を見出してそれを徹底的に伸ばしていく教育を考えてほしい。</p>	<p>特別支援学級においても小学校と中学校の連携を深めることで、個々の子供の特性に応じた教育が継続的に実施できると考えています。</p>	
15	<p>区民から特別支援者を募り、face to face の対面レッスンをトレーニングさせてはどうか。欧米では100年前からの常識である。教師が果たせない専門知識の保有者をどのように探すのか、知恵を出してほしい。</p>	<p>練馬区では、教員とともに学習活動上の支援を行うために、学校生活支援員・学校生活臨時支援員を採用しています。教育に識見のある方を区報等で広く募集し、合わせて地域で活躍されている方を学校側から推薦していただくなどの方法により、地域の人材の活用に努めています。</p>	

16	<p>「今後の小中一貫教育の進め方」で、学校図書館についての記述がなく、教育行政に大きな不安と不信を感じる</p>	<p>みどりの風吹くまちビジョン「計画4」の中に学校図書館の機能強化が位置付けられています。これを受けて、学校図書館の活用と読書活動の推進を主要施策の一つとして、校種や学校ごとの児童生徒の実態に応じた図書館活用、読書活動の促進が図られるよう努めています。今後は、図書館活用、読書活動における小中学校の連携等も検討してまいります。</p>	
17	<p>「はじめに」に書かれている平成17年の教育改革の真意は何か。「教科書を使わない小学校」などの情報は、知らなかったのか。プロの集団とは言えない教育委員会である。</p>	<p>練馬区が教育改革に先行して実施した小中一貫教育について、昨年、国の法制度が整備されました。今後も練馬区における小中一貫教育を推進し、9年間の義務教育の質を高めていきます。</p>	-
18	<p>練馬における「学校図書館への軽視」が気になる。 これだけ議論が進む中で「学校図書館」が論じられない事への疑問が不思議に思います。子供にとっても、教師にとっても、資料からの情報の取得は絶対に必要な問題である筈です。故意にこの図書館問題を避けているのか。本来図書館は学校以前からの情報拠点なのだから、図書館抜きの学校議論は単なる配置論に過ぎない。 「小中一貫教育」の検討・研究事項に「学校図書館の充実問題の検討」を入れることを要求する。</p>	<p>みどりの風吹くまちビジョン「計画4」の中に学校図書館の機能強化が位置付けられています。これを受けて、学校図書館の活用と読書活動の推進を主要施策の一つとして、校種ごと、学校ごとの児童生徒の実態に応じた図書館活用、読書活動の促進が図られるよう努めています。また、練馬区子ども読書活動推進計画の中で学校図書館の利活用の推進を重点取組としており、各学校で学校図書館の運営計画を作成するとともに、教員に対する研修も実施し、学校図書館を活用した学習活動の充実を図っています。</p>	
19	<p>「隣接・近接している小中学校の状況」では、生徒数に大きな隔たりを感じる。 デボラ・マイヤー著「学校を変える力」によれば、規模の小さいことと自由に学校を選択できる事が、学校を良くする原理原則であるという。保護者・教</p>	<p>練馬区では、小学校は12～18学級、中学校は11～18学級を適正規模と考えています。1学級あたりの児童生徒数の平均値である30人で計算すると、小学校は360～540人、中学校は330～540人となります。 小さな学校には小さいなりの良さが</p>	

	<p>師・校長・教育委員会と、子供による話し合いによって子供の非行や不安定な状況からの解決案を導ける。生徒数は500人までが限度、300人が適性であるという。小さな学校にするためには予算が無いと言うと思うが、練馬を良くする原点は、「より良い教育」である。根本的な学習を要望する。</p>	<p>ありますが、同時にデメリットもあると考えています。</p>	
20	<p>「4エリアのイメージ図」から練馬区は各町の人口が大きな格差となっている事が見えてくる。その結果学校の配置にも著しい格差を生じており、PTAなどの活動の強弱差が大きく現れてくるのではないかと。学校に子供がお世話になっている間は、PTAへの参画義務を感じても、卒業してしまうと学校への興味が薄れてしまう現状が定着している以上、PTAだけに学校への意見ないし話し合いの場を与えるのではなく、そうした興味を持ち続けている人々に自主的に登録してもらい、子供たちへの教育に関わる「外部者からの意見具申グループ」を設ける必要がある。</p>	<p>各学校では、学校評議員を設けたり地域応援団と連携・協力したりして、家庭や地域社会に開かれた学校づくりを推進しています。また、平成28年度から学校の教育活動を発展充実させるために、多様な経験や技能をもつ地域に協力していただく学校地域連携事業を進めています。PTAの方だけでなく、地域の様々な方たちに学校教育を支援していただくための仕組みづくりに努めています。</p>	
21	<p>子供たちにとって「生涯学習のためのスキルを学ぶ」事が「学校教育」なのだと思う。学校図書館を中心にする「教育のパラダイムシフト」が必要と考えます。「司書教諭」や「学校司書」を専任させ、さらに「学校図書館ボランティア(支援員)」の養成にも取り組んでほしい。学校教育が主体となって図書館の充実を行ってほしい。</p>	<p>現在、区内小中学校においては、12学級以上の学校全てに司書教諭を置いております。また、学校図書館運営を支援する外部人材を配置し、学校図書館機能の充実に努めております。学校図書館ボランティアについては、学校ごとに組織を充実させているところです。また、全校で学校図書館運営計画を作成し、学校が主体的に学校図書館運営の利活用を推進しています。</p>	
22	<p>「読書」の重要性は、「読解力」「要約力」「文書作成力」などをスキルアップすることに最大の目標を置いてほ</p>	<p>区立学校は学習指導要領に準拠した指導を行うことが義務付けられております。学習指導要領に示される各教</p>	

	<p>しい。これまでの読書は、国語という教科において、通読・精読・味読など三読を目標に行ってきたと思うが、これからは、図書館の時間という教科で「論理的考察力の育成」を強力におし進める必要がある。欧米では以前からそうした論理的思考力育成が行われており、その原点を形づくるのが図書館の時間である。</p>	<p>科、領域に「図書館の時間」といったものはなく、図書館を活用した学習は、各教科の指導の中で効果的に実施することとなっています。今後もさらに図書館を活用した探究型の学習活動などを充実させるよう各学校に働きかけ、思考力・判断力・表現力等の向上を図っていきたいと考えます。</p>	
23	<p>教育に関わる区民との「熟議」を、「教育だより」などで継続的に行うべきである。教育だよりに我々区民からの意見欄を2から3ページ書かせてほしい。「教育に関わる熟議」をスタートさせたい。あるいは、私が特定非営利活動法人として、練馬区職員研修所で行っている「勉強会」に参加してほしい。</p>	<p>教育分野の個別計画策定時における区民意見反映制度の活用をはじめ、様々な機会をとらえて教育に関する区民の方からの意見を伺っていきます。</p> <p>教育だよりは、教育委員会の取組や、区立小・中学校・幼稚園の具体的な教育活動などの情報を提供することを目的としておりますので、区民の方の意見欄を設ける予定はございません。ご提案の「勉強会」については、現在のところ参加は考えておりません。</p>	